

(第9号様式)

平成30年度 第2回香川公民館運営審議会会議録

議 題	平成30年度第2回香川公民館運営審議会会議次第 議 題 (1) 平成30年度香川公民館主催事業報告(第1四半期) (2) 諮問について (3) 第30回公民館まつりについて (4) その他
日 時	平成30年7月31日(火) 14時00分～16時00分
場 所	香川公民館2階 和室
出席者氏名	山地廣委員、長谷川泉太郎委員、明石香代委員、大谷紀子委員、 東いづみ委員、鈴木由香里委員
会議の公開・非公開	公開
傍聴者数	0人
非公開の理由	

○事務局

これより、平成30年度第2回香川公民館運営審議会を開催いたします。本日、奥谷委員から欠席の連絡が入っておりますが、茅ヶ崎市立公民館条例施行規則第13条第2項の開催要件を満たしておりますので会議は成立していることを御報告いたします。また、本日傍聴のお申し出はございません。はじめに、お配りしております資料の確認をさせていただきます。平成30年度第2回香川公民館運営審議会会議次第、【資料1～資料12】

「香川公民館主催事業報告書」（第1四半期分）、【資料2】平成30年度第1回香川公民館運営審議会における諮問に関する主な意見、【参考資料】子育て世代・シニア世代のつぶやき本日机上配布の香川公民館30年度諮問テーマ分析、以上、不足等はございませんでしょうか。それでは、さっそく議題に入りたいと思います。議事進行につきましては、茅ヶ崎市立公民館条例施行規則第13条第1項に会議は会長が招集し議長となるとありますので、これより山地会長に議事進行をお願いいたします。

○山地会長

みなさんこんにちは、本日はお忙しい中、ご出席くださりありがとうございます。さっそく平成30年度第2回香川公民館運営審議会を開催いたします。次第にそいまして、議事を進めてまいります。この会議は公開になっており、会議録を作成いたします。会議録には会長と委員1名の署名が必要となります。名簿順をお願いいたします。今回は東委員よりお願いいたします。それでは議題1、「平成30年度事業第1四半期の報告について」を議題とします。事務局の説明をお願いします。

○事務局

それでは、まずはじめに、資料1～資料12の「香川公民館主催事業報告書（平成30年度第1四半期分）」によりご説明させていただきます。事業実施の様子をスライドでご覧いただきたいと思います。資料1-1をご覧ください。英会話講座「街中で役立つ英会話」と題し、英会話上達のコツを学んでもらい、英会話に積極的にチャレンジするようなきっかけづくりをするもので、2日間の講座です。11名が受講し2日間で延べ21名が受講しました。受講者から「2日間ではなく、継続してほしい」という意見がありました。資料1-2、1-4、1-11をご覧ください。かめさんのおうちは例月で行われている乳幼児の教育支援事業です。4月、5月、6月と毎月実施しています。5月は、ベビーマッサージ、手遊び絵本の読み聞かせを。6月は、誤飲時の応急手当講座や、体操などを行いました。4月は、雨天のため6名（1才：2名、2才：1名、保護者：3名）、5月も曇りのち雨のため11名（0才：2名、1才：3名、保護者：6名）、6月は、17名（0才：3名、1才：3名、2才：2名、3才：1名、保護者：8名）でした。6月は、晴れだったため参加者も増加しました。資料1-3をご覧ください。親子でのびのびリトミックは一昨年度、昨年度も行った事業で評判がよく今年度も実施いたしました。参加者間の交流を深めようという意図で、昨年度まで3回シリーズで実施しましたが、今年度は2回講座としました。概要は報告書記載のとおりです。資料1-5をご覧ください。みんなの経済教室「人生100年時代の人生計画と資産形成」と題して実施しました。定員数25名に対して参加者は7名と若干少なかった結果となりました。資料1-6をご覧ください。かがわ健康ウォーク「小田原てくてく歩き」を実施しました。当日は、あいにくの天気となりましたが、小田原の歴史を学びながら、手軽な運動としてウォーキングにより歩くことの楽しさを体験することができた事業となりました。資料1-7、資料1-12をご覧ください。手づくり布ぞうりを実施しました。こちらも非常に人気の講座です。講師は、過去に講師養成講座を受講された方も加わっていただ

いたため、参加者の立場にそった細かい指導と円滑な講習につなげることができたとともに、講師養成講座を受講された方の指導レベルのアップや地域に還元する意識をさらに促すことができました。資料1－8をご覧ください。庭木の剪定教室です。こちら、ここ数年続けて行っている事業です。非常に人気が高く、すぐに定員に達してしまいます。今回も定員を超える申し込みがありましたが、当日キャンセルにより、13名の参加者となりました。公民館の庭木を使って日大の生物資源科学部の講師で、赤木造園事務所という造園施工の仕事もされている方が講師です。大学生に教鞭をふるってられるため、教え方が非常に上手です。資料1－9をご覧ください。話し方講座「毎日を楽しむ生き心の若さを保つ話し方」を実施しました。参加者は10名と少なく、アンケート結果も今後も実践できるような「ためになる」講座だったという方と、期待外れだったという方と二分された結果となりました。資料1－10をご覧ください。根強いファンが多い文豪、夏目漱石と芥川龍之介の作品に対する文学講座「漱石・龍之介の俳句と小説」と題し、実施しました。受講された方からは、連続講座を希望される方や、作品を改めて読み直そうという方なども見られ、よいきっかけづくりとなりました。以上で説明を終わります。

○山地会長

どうもありがとうございました。事務局の説明が終わりましたけれども、ご意見ご質問がありましたらお願いいたします。

私の方からよろしいですか。資料1-5のみんなの経済教室。これは出席者が少なかったようなのですが、参加している年齢層としてはどのくらいの方が出席されているのですか。この講座の趣旨から行くと定年の前ですかね。

○事務局

そうですね、どちらかというと60歳以上の方が多かったです。人生100年時代ということで、どういった形で資産を運用していけばいいかという内容でした。内容が難しい部分もあったり、今回は資産形成プランということで、NISAとかIDECOですとか、どれが良いかというのはなかなかいえない部分があるのですが、そういったところを学ぶ話になっております。年齢的にはやはり高齢者の方がほとんどでした。

○山地会長

ちょっと専門的な所があったんですかね。

○事務局

そうですね少し専門的すぎた部分もあると担当者も言っておりました。IDECO等の説明もありましたので対象としてはもうちょっと若い層が来てくれればよかったのですが。

○山地会長

本当はもうちょっと若い層が、60歳以降どうやって資産を費やすために、どう準備していけばいいかそういう内容だったらよかったかなと思いました。でも私何かもちよ

っと気になる内容ではありました。

○事務局

一番来てほしい層としてはもう少し下ですかね。担当者も内容の見直しが必要と自己評価しておりますので、来年以降は見直しをしなければいけないかなというふうに思いますね。

○山地会長

他に何かありますか

○明石委員

「かめさんのおうち」は、ベビーマッサージとかいろいろやっていますが、「かめさんのおうち」の時間の中でそういうことをやっているのは今年からだったのでしたっけ。

○事務局

そうですね。去年は実施してはいないですね。今年から行いました。「かめさんのおうち」の中でミニ講座といいますか、15分とか20分程度のものなんですが、保育園の先生に来てもらったりですとかして、参加者の方々と、ボランティアの方々にもためになる内容ですので今年から実施しております。

○明石委員

それがいろんなところのちょっとした子育てサークルとか、いろんなところでやっている中でそういう講座があるというのは、他の集まりと比べても特色があると思うのですね。そういうのがあるってお母さんたちがわかると、その日に合わせてきてくれるのではないかなと。ただ行って遊ばせてっていうのもあるのですけども、たまにそこでおはなし会などがあったりすると参加する人が多くなるので。香川の子育て支援センターのところはちょくちょくいろんな形が見えておはなし会だったり、何か講座みたいな話すると、そこに合わせていらっしゃる方が少し増えるのかなので。やっぱりその日はそれがありますよとわかると、いいかなと思います。

○山地委員

チラシにはそういったことが書いてあるんですか

○事務局

書いてあります。

○明石委員

ホームページでは「かめさんのおうち」でこういうことがありますというのは書いてあるのでしたっけ

○事務局

そうですねホームページの方にはかめさんのおうちは掲載していますが、ミニ講座は書いてないので、そこに記載することは可能ですね。

○山地委員

他にございますか。

私の方からもう一点いいですか。資料の1-12、「手作り布ぞうり」のことで。下のほうの課題反省点のところでは一番上のところに書かれているんですけども、前回との差別化のため対象を学生の参加を意識し、中学生以上で日曜開催としたが若い世代の申し込みはなかった。近隣の学校にチラシをもっていくなど工夫が必要である。この辺は今回はチラシの配布等はしなかったんですか。

○事務局

そうですね、中学校のほうにチラシの持ち込みはしていないですね。

○山地委員

1回目と2回目は対象者を変えているのですか

○事務局

そうですね、2回目は講師養成講座ということで、ステップアップするための講座です。次の講座の時にボランティアで布ぞうりを参加している皆さんに教えてくれる人を養成する、そのレベルまでできるようにするというのが、資料1-12のほうの講座になります。初めての方でも参加はできるんですけども、趣旨としては、一般向けの講座で手伝ってくれる人を募集するための練習会というような内容になっております。

○山地会長

かなり若い世代を狙っていたということですかね。

○事務局

お年寄りから子どもまでが交流しながら作れると良い事業だったと思いますね。

また、どうしても作っていくと受講生の中でも温度差が、理解度の違いっていうのが出てきてしまうと、ではどうしようかということで、こういった養成講座でステップアップした人ができない人に教えていただければ教え合える関係ができて良いでしょうし、1つの方法として今度は動画を撮ろうかということも話していました。それをスロー再生ではないですけどもゆっくり流せば、わからないところも、紙でテキストになっているとなかなかわからないところもあるので、動画を撮って流したらいいのではないかとということも少し話しておりました。

○山地会長

写真を見ると一対一に近いような形ですよ

○事務局

そうですねマンツーマンで教えている部分もあります。

○山地会長

結構コツがあるんですかね。

○事務局

そうですね、やっぱり講師の先生のは全然違いますね、とてもうまいですね。

○山地会長

人気のある講座だと思いますのでもっといろんな人をつないで年に何回かできるとい

いですね。他にございますか。よろしいですかそれでは次の議題のほうに移ります。次に議題２、諮問についてを議題としたいと思います。資料は、「香川公民館３０年諮問テーマ分析」、資料２、参考資料となります。「香川公民館３０年諮問テーマ分析」は、前年度の第４回香川公民館運営審議会におきまして出された意見、前回第１回香川公民館運営審議会の意見、参考資料の「利用懇だより」から出た意見を抽出し、テーマごとに分析をしたものです。それでは、最初に資料２の方、事務局の方から説明をお願いします。

○事務局

資料２は、平成３０年度第１回香川公民館運営審議会における諮問に関する主な意見をまとめたものです。公民館と子どもについての問題点、子どもの居場所のために公民館が行うべき方向性、公民館で行った方がよい具体的な事業は、第１回審議会で出た意見を整理してあります。今回、第２回香川公民館運営審議会における議論の内容としましては、これらを踏まえて、子どものニーズとその親のニーズは具体的にはなにか、どういう調査をすればよいか。「利用懇だより（平成２９年度）」子育て世代のつぶやきから読み取れることはなにか。を考えて頂きたいと思います。まず、①の子どものニーズとその親のニーズについてですが、子どもが公民館に求めているもの、ニーズは何かを調べる必要があるかと思います。つまり、「子どもに聞きたいこと」として、どういったものがあるかについて皆さんから挙げていただきたいと思います。また、親が公民館に対して、求めているもの何かを調べる必要もあるかと思います。つまり、「子どもの親に聞きたいこと」として、どういったものがあるかについて皆さんから挙げていただきたいと思います。例えば、「公民館がどういったものか知っているのか」や「子どもたちの放課後の過ごし方」や、「高齢者と何かしてみたいことはあるか？」「中高生や高齢者から教えてもらいたいことはあるか？」など、色々な意見を出していただければと思います。次に、「利用懇だより（平成２９年度）」子育て世代のつぶやきから読み取れることはなにか」につきましては、参考資料をご覧ください。こちらは、平成２９年度の利用者懇談会が発行している「利用懇だより」です。タイトルにあるように「子育て世代・シニア世代のつぶやき」と書いてありますが、この「利用懇だより」から読み取れるものは何があるかを皆さんからご意見を出していただきたいと思います。

○山地会長

この資料２をまとめていただいたんですけども、このベースになる分析資料ということで今日お配りしたこの表になったものがあるんですけども。こちらを私の方から説明します。去年の第４回、それから今年第１回、それから利用懇だよりからみなさんの意見をまとめたもので、全部で７０項目くらいでした。表の見方ですけども、意見というふうに書いているところが、みなさんの議事録でいわれた内容、それを右の方に公民館の機能ということで、どんなことを言っているのかと、たとえば学習支援、多世代の参加交流の内容を言っているのか、そういった形でキーワードとして読み取れるもの

を11項目に分類し出しております。その右の方の形態というのは、だいたい同じような意見をまとめたものであるのですども、数字が書いてあるのは、同じような意見をまとめたものです。そこでは、どういう事業を公民館としてやっていけばいいのかということを経験のところで書きました。あと、どういうふうな人を対象にしているかということですね。少し簡単に説明しますと、まず、最初に1番のところ、1番はですね学習支援みたいなものをやったらどうかということです。すでにフリースクールですとか、ボランティア中心になって学習支援をやっているところがあるのではないかと、鶴嶺公民館では今年度学習支援をやるとの意見もあったので、そういうふうな内容を公民館として取り組んだらどうかということです。2番目のところは、全部で5つの意見があるのですけれども、茅ヶ崎カルタを使って一緒に遊ぶというものです、茅ヶ崎カルタで茅ヶ崎のことを知りつつ遊ぶという形で広げられたら、という意見がございました。同じような意見が5つほどあります。ここでは茅ヶ崎カルタでまとめていますけれども、もっと大きく広げれば、茅ヶ崎カルタだけではなくですね、地域文化をいろんな世代の人が共通して体験するような事業ができたということでもまとめてあります。3番目のところは、たとえば中学生が積極的にダンスを披露するとかですね、今あるそうなので、小さな子でも身近なお兄さんお姉さんに教えてもらったりするといったのではないかと意見がございました。そういうふうなのがですね、形態のところにまとめてありますけれども、小中高、大学生までが芸術・趣味をうまく伝えていくとか、一緒に教わるというのですかね、そういうふうな場をつくったらどうかということですね。ダンスもありますし、将棋も、あと絵画、音楽とか。そういうふうなものでつくったらどうか、というのが皆さんからありました。それからあと4番目のところがですね、子どもの居場所はというふうに作ったらいいのか、というふうなところですね。例えば1番上のところ、鶴が台では誰でも参加できる居場所づくりをやっていると。これは翔の会が主催でやって、いろんなゲームをしたりとか、食事をしたりとかしていると。そういうふうな機能も公民館としてやったらどうかという事ですね。その下にも書いてありますけれども、公民館には放課後に子どもがたくさん来て、子どもにとって必要な場所だなと感じます。そこに大人としてどう関わるのかというのは考えさせられます。とあります。子どもの居場所をロビーとかで遊んでる子どもたちに対してというふうに活かしていくか、いろんな世代がどうしていくか、そういう場所を作っていったらどうかということです。それから5番目の方がですね、若い世代がどういう形で公民館の活動に参加できるか、してもらえるかというところを意見としてまとめたものです。例えば学校にあるボランティアクラブの人たちに来てもらうとか、あるいは参加という形ではなく運営に関わる形で講座の企画とかをしてもらう、あるいは職場体験という形で公民館に来て経験をすると、そういうふうな若い世代小中高校生大学生が公民館に来ていただくために、というふうな形でやればいいのかというのがここに記載しております。あとは公民館まわりの企画として入っていただくとか、そういうお話もありました。6番目のほうはで

すね、情報発信です。公民館の情報をどのように発信したらいいかということで、5つほど意見が出ております。これはもうすでにFacebookをやっているよとか、サークルの情報をどういうふうに発信するのか、子どもに対してどういうふうなPRをするのかというような、情報発信についての意見を記載しております。それから7番目がですね、子どもの居場所として何かの仕掛けられないかという、公民館に来ている人たちが約束した子ども同士だけの関わりになっている、カードゲームをやっていると。集まっている時がチャンスで何か仕掛けられるのではないかということで、先ほどまとめていただいた資料にもありましたけれども、子どもがロビーで集まっているときに何かの仕掛けをすればいいんじゃないかという意見です。あとはここにあるように、学習の場を提供すればいいのではないかとか、何か気づきの場所を提供するですとか、息抜きの場所も必要なんではないかとか、子どもたちの居場所ということでいろんな形での形態が記載してあります。8番目がですね、意見としては少ないですけども、学び直し、社会に出て必要な知識とかそういうものをですね、勉強できる講座があればいいんじゃないかということです。また、寺子屋を開きたいという大人のための講師育成とか、そういう場を提供すればいいんじゃないかというような意見がありました。9、10、11番は利用懇だよりの子育て世代のつぶやきから分析したものになります。たとえばですね、急な用事や急病の時に子どもが預けられる手段がありません。ファミサポも緊急時の対応ができない場合もある。他にももっと子どもを預けられる施設などがあると助かります。とかですね。幼稚園の合同説明会があると嬉しいとかですね。些細な疑問や幼稚園のことを聞いたりできる場所が公民館にあると嬉しいというようなことが書かれておりました。これは預かり施設みたいなのがあったらいいとか、何か情報が得られればいいとかそういうものが公民館にあればいいなというものです。それと10番目がですね、子育て世代の方にどういうふうにサポートするかということで、意見としては、「子育て中のお父さんお母さんにとって、周囲の方々からのお言葉をうれしく思います、これからは温かく見守っていただけるとありがたいですね。」それから、「昔に比べて子どもを預ける場所遊ぶ場所がたくさんあり親にとっても子どもにとっても育児をしやすくなっている反面、祖母、祖父など家族との関わりが少なくなっていると感じ寂しく感じます。」あとは「子育ては初めてのことばかりでわからないこと、お父さんお母さんだけではどうにもならない時があります、そういうときに助けてもらえると本当にありがたいです。おじいさんおばあさんが近くにいない場合でも、ご近所の方や地域の施設などいろいろな方々の助けを借りて楽しく育児ができるといいですね。」など。これに近いような意見が出ています。子育てをしている方を周りの方がどうサポートしていくか、まとめた形態としては子育て世代への声掛け支援、そういうふうなものが公民館できるといいのかなと思います。11番目はですね、「かめさんのおうちをよく利用しています。のんびりゆったりしたリラックスできるスペースで利用しやすいです。このようなフリースペースや乳幼児が気軽に遊びに行ける場所を設けてもらえるとうれしいで

す。」それからあと、「雨の日や子どもがまだねんねの状態のときに公民館に気軽によれる場所が欲しいですとか、子育て支援センターや地域の子育てサロンなどがあり小さな子どもと何をしようかと迷っているときとても助かりました。曜日や時間にかかわらずいつ行っても誰か遊んでいるような、室内の広場のような場所が公民館など誰でも集まりやすい場所にあるともっと外に出て行きやすいと思いました。」こういうふうな意見つぶやきには出ていました。ここで出ている内容としてはリラックスできる場所ですとか、気軽に立ち寄れる場所、いつでも利用できるとかそういうふうな場所が公民館にあってもいいのかなという話で11番となります。形態としてはですね、子育て世代が自由に使える場の提供みたいなことを考えたらどうかということです。あと12番目、最後です。これは今後どういうふうなアンケートをすればいいかということで、先ほど館長の方から説明いただきましたけども、子どものニーズだとかそんな親のニーズですとかをどのような形で把握していけばいいか、アンケートの取り方についての内容です。かめさんのおうちとかですね、そういうところで未就学児とかその親の意見を聞くことができますとか、そういう意見が出ていますのでどういう形で皆さんの声を把握していけばいいのかというのをまとめたのが12番となります。全部は紹介できませんでしたけれども、皆さんの意見を整理するとこの12項目ぐらいにまとめていけるかなというふうに思います。これをご参考にですね、また皆さんと議論していきたいと思います。あとこの子育て世代のつぶやきは既に読んでいただいていますかね。一応ここに書かれている内容でキーワードだなというふうなものについては、先程の表のところで記載しております。

○大谷委員

4番目の鶴が台の2番目なんですけれども、主催は翔の会ではなくて、翔の会は場所の提供と食事のお手伝いで、主催は地域の方です。

○山地委員

はいわかりました。場所の提供をしていると。

○大谷委員

場所と食事のお手伝いをしてくださっているんだと思います。

○山地委員

もう少し具体的に公民館の事業としてどういう内容をやっていったらいいとか、そういうのを把握するには、この大きな項目としてはこの内容で、もう少し具体的に子どもさんがどういうふうにしてほしいと思っているのか、親もどういうことをしていきたいと思っているのか、そういうふうなニーズをどういうふうに把握していけばいいかということで少し皆さんの意見をいただけたらと思います。これから2回ですね、審議会ありますので、今度は11月か12月ですか、それぐらいにありますのでそれぐらいにニーズを把握できるような方法があればと思います。

○明石委員

すごい前回の発言とか、一覧にさせていただいてすごい資料だなと思って拝見していました。その中でニーズの把握というところで、2か3項目あるんですけども、カルタの大会とか、発表の場を子どもたちが、何か希望して、こういう場所があったらこれができるのとか、具体的なものが上がってきているのだとしたら、3月に子どもまつりがあると思いますので、そこで発表もできますよね。そのときに発表みたいな形でやってらっしゃると思いますので。

○事務局

そうですね、子どもまつりはやっております。主催事業で作った作品ですとか、習ったことを、たとえば紙芝居でボランティアですとかレッツトライボランティアですとか、そういうものを発表する場は実施しております。

○明石委員

そういう時にやっぱり子どもの発表の場っていうのを、公民館まつりみたいな、ステージ披露みたいな体験を、何かできないかなと思いました。どんな形だったら子どもたちが参加できるのかとか、どんな形だったら自分たちで披露したいのか、どう思っているのか、その希望とるのはどうしたらいいのかなというふうに感じました。子ども大会でしたっけ。

○事務局

子どもまつりですね

○明石委員

というふうな機会があったりするのです。

○山地会長

ダンスだとか音楽だとかそういうふうな内容ですね。

○事務局

子ども自身が何か発表したいことがあるかということを知ることですかね。

○明石委員

ステージがあって、披露できる場所があったら、なにかしたいか。

○山地会長

子どもまつりは対象は中学生とかですか。

○事務局

基本的には公民館の主催事業の発表なので子ども事業となるので小学生が多いですね

○山地会長

皆さんの意見を見ると中学生とか高校生が発表して、それを小学生が入っていくとかそんなイメージですよ。対象が広がるような感じですかね。

○長谷川委員

公民館の事業とは違うのだけれども、今公民館のところを少し入っていったところに、ある人が子どもだけ集めた遊び場所とかそういう行事をやっているのを知っていますか。

○事務局

たんぽぽハウスとか伸びしろクラブとかですかね。

○長谷川委員

そうそう。ああいうのがあるという事は、子どもたちで落ちこぼれというかそういうのがあるからそういうニーズが出てきてるんだらうから。ちょっと一度見学してみて、あそこのいいとこだとか見れるといいなと思いました。

○山地会長

毎日やってるんですかね。

○事務局

香川小学校の近くの所ですかね、学習支援をやっているところですよ、週1日とか2回だと思います。

○長谷川委員

ああいうのがこの近所にできているという事は、ニーズがあるからできているんだらうから。

○事務局

少し話は変わるのですが、先月くらいに、香川小学校と鶴が台小学校の3年生が公民館見学に来られたんですね。大勢の方3年生が30分程度公民館を見て、もう30分は図書館を見て、3年生の全クラスが交代で見るとは思いますが。初めて来たというお子さんもいますし、よく来ている子もいる。初めて来た子も次からから来るよって、実際に来てくれるんですね。実際に公民館の見学会が終わって、学校の授業が終わった後、放課後館長きたよーとか元気に来てくれるんですね。1回で終わるかと思ったのですが、今日もその子たちが来てくれたりとか、継続してきてくれるところがあるんですね。公民館は何をやっているか知らないっていう子が3年生だとまだいるんですね。こういうことやってるんでしょって答えられる子もいれば、全然知らない子もいる。香川公民館はたまたま雑木林が南側にあるので、雑木林にも入れるんだよというのと、それも知らなかったと。そうすると今度遊びに行きたいと。そういう話になって、結局私たち情報提供ができていようできてなかったという部分もあるかと思います。一方で話が合ったレッツトライボランティアは1年を通して防災だったり福祉について学習しようというところで、今年は20名の小中学生が参加していただいているんですけども、その前の年は17名、その1年前は7名の参加だったんですね、年々後増えていっていると。こういった傾向もあって去年やった子も当然いるんですけども、そういう子たちは公民館でこういうことをやっているというのは大人以上に理解しているじゃないですけども、楽しみながら理解してくれているというのもあるので、そういう子たちはもっと大事に育てていきたいと思いますし、初めてという子ももっと引き寄せなくてはいけないというのはやっぱり思います。ロビーに来ている子たちがホント毎日来てくれていて、カードゲームをやっている。皆さんからもこういうことに対して何か仕掛

けたほうが良いのじゃないかというような意見もいただいております。今館で話をしている中で、これはまだ例えばの段階なのですけれども、来ている子たちに、いつでもいいから手話を教えようとか、なにか覚えたら1ポイントで公民館に来たらまた1ポイント、子どもたちはカードのポイントとか集めるのが好きなので、何かきたらスタンプ何個、何かができたらスタンプ何個、挨拶ができたら1個とか。100個たまったら何かあげようとか、そんなふうな仕掛けづくりも良いのじゃないかと思いました。それが変な方向にいかないかということはあるのですけれども、何かしらのきっかけ作りをしなければいけないというのは、トライ＆エラーで失敗してもいいからやってみようかというのは今検討しているところでございます。

○明石委員

ご褒美って大変かと思うんですけれども、100ポイント集まったら公民館マスターみたいな称号でもいいかもしれませんね。図書館でお話し会をやっている時、やっぱりカードを作ったことがあったんですよ。それで図書館で12月になったらプレゼントが来るよみたいな感じでやっていたんですけれども。図書館には学習雑誌があって、科学とか学習とかの、それのおまけが結構あるので、そのおまけを年に1回クリスマスの時に来たらあげるとか、何ポイントたまったらあげるとかしたのですけれども結果それが続かないで辞めちゃったんですけれども。商品とかそういうものをあげると大変だけど、ちょっとメダルみたいなものを作って公民館マスターとかそういうことをすれば目標持って、それと負担もなくできるかなと思いました。

○山地会長

図書館でもやっていたんですね。

○明石委員

昔やっていました。

○事務局

そうですね。何かをあげるってなると、だんだん違う方向に行ってはいけないので。子どもたちが喜ぶもの、公民館マスターなんてカッコいい称号を与えられたらいいですよ。

○山地会長

放課後に子どもたちが集まっているっていうのはそこにうまく何か仕掛けられる、何か事業としてできると、ただ遊んでるだけではなく、例えば英会話はそこでちょっとやってみようとか、何かそういうような遊びみたいな形でそれが1つの事業としてなっていけば、いいですね。後ろに先生がうろうろしていてちょっと聞けるとか。

○明石委員

3月にボードゲームあったじゃないですか、ボードゲームしかおかない1日とか。

○山地委員

プログラミングとかもやってたと思いますので。そういうのをフリーでやらせるとか。

ロビーで何かそういうふうなものがあったら、うまく使ったらいいかなあと思いますね。そうするとロコミでいろんな友達がもっと来るとか、親御さんがそういう情報を聞いてうちの子どもも行かせるとかあるかもしれません。

○事務局

今館で話をしている中で、大人がこうだったらいいかなというのが、子どもたちがどう思っているのか分からないので、その辺もここで子どものニーズを聞いてさらにはその親御さん達のニーズがどんなふうに思っているかっていうのはやっぱり調査しないといけないのかなとは思っていますね。それをまずはやるべきなのかなとは思っていますね。実は8月4日の土曜日なんですけれども、しろやまフェスタというお祭りがありまして、ランチ2の方の入り口のところでブースをお借りすることができまして、そこで公民館のPRブースということで8月4日の朝10時から夕方3時まで短い時間なんですけれども、公民館のPRをしてこようと思っております。そこに来る人っていうのは、公民館というよりは、ハマミーナでやっている生涯学習という枠の方なんです。ここで私たちも出て行ってチラシを配って、公民館でこういうふうなことをやっているんですよというのをPRしていきたいと思います。例えばそこで公民館を知っていますかとか聞くこともできるのかなというふうには考えております。その辺でも皆様のご意見いただいてもし可能であればそこでもアンケート調査などをしてこようかというふうにも考えております。

○明石委員

しろやまフェスタにいかれる方たちはハマミーナの方にも行くし、公民館の方にも行くという方もいるんですかね。

○事務局

向こうにいる方たちは基本的には南湖公民館に流れてしまうのかなとは思いますが。どちらも行政が主催している講座なのでハマミーナでやっている講座にも参加しているし、公民館でやっている講座にも参加しているという子はいらっしゃるかもしれませんね。そういう人は市の広報紙をしっかりと見ているので、いろんな市の主催の講座に参加している方々も多いかと思います。ただもちろん、公民館に来たことがないよという方もいると思いますので。

○山地会長

5館で出られるんですか。

○事務局

そうですね5館の事業紹介ですとか場所の紹介ですとか、ちょっとした講座、新聞紙でオリジナル鉛筆作りをやったりします。

○東委員

イオンでやっていた公民館のPR、最後チラッと行ったんですけども、なかなか良かったと思います。やっぱり他のところで、自分の近くのところはわかるけれども、他の

ところにも行っていいんだっていうか、ちょっと見て興味がある講座とかあったら出かけていってみようとか、知らないと参加できないので。そういう広めていくというのは大事だと思います。

○山地会長

周知大事ですよ。

○鈴木委員

基本的なところなんですけれども、こちらの3番のところで、具体的にこの香川公民館で音楽とかダンスをやる場所とかっていうのはあるんですか。ここだったらいいよというのは。

○事務局

ダンスサークルさんは1階の講義室を使っていることが多いですね、尺八やサックスの練習等はこの部屋を使っている場合もあります。

○鈴木委員

そういうことはやってもいいということですかね。

○事務局

そうですね、そんなに隣の人に響くような音が出ないようにであればそういう利用も良いですよということにしております。

○大谷委員

このところに室内の広場のようところが公民館にもあるといい、というのがありますが、実際に去年でも夏休みとかお弁当を持って1日中来てる子がいたって聞いたんですけれども、そういう子たちは今年もいるんですか。あと学習の部屋を開いたとき、去年参加者がいなかったということも聞いたんですけれども、今年もどうなんでしょう。

○事務局

この前明石委員がおっしゃっていたことですかね。

○明石委員

おはなし会の時に持ってきている子がいましたね。

○事務局

持ってきている子もいると思うのですが、基本的には一旦帰ってまた来るという子が多いと思いますね。

○山地委員

飲食してもいいんですか。

○事務局

飲食は大丈夫です。後は学習室開放も、今もやっています。学校が終わった直後はすぐきたんですけれども、だんだん減ってきてはいるんですけれども、何人かきていますね。今日も来てましたね。

○大谷委員

なんかそういうところでゲームやってもいいんですけれども、何もないんですけどもとりあえずここに行けば安心かなというのは、ちょこっとそういうスペースが一角でもあれば、親としても安心だし。

○山地委員

つぶやきの意見を見ると、皆さんちょっと気楽に行って休めるとか立ち寄れるとか話ができるとかそういう場所が自由に使えるというか。

○大谷委員

なんとなく親のほうも子どものほうも公民館行ってみようとか、なんとなく他の場所に比べると安心。

○山地会長

なかなか公民館というイメージは皆さんそういうふうなイメージ持っていないかもしれませんね。自由に使えるっていうイメージは。そういうのをうまくPRというか、いつでも来ても飲食もできますよと、自動販売機はないと思いますけれども。お昼一緒にみんなで食べましょうとか。

○大谷委員

スペースがもうちょっと広ければ良いんですけれども、なかなか取るの難しいかとは思うんですけれども。

○山地委員

テラスモールなんか行くと子どもさんを連れのお母さんたちたくさんいますよね。そういうところに一緒に輪になってお昼を食べていたりとか。そういう場所みたいなものですよね。そういうふうに自由にできればいいですよ。ということはつぶやきの中から読み取れますね。

○明石委員

児童館がないので公民館が児童館の役割みたいなことをしているところがあると思って、地域の人からしたら公民館があってくれるっていうことがすごく安心感があって、助けられているんだと思いますね。今地域の要求が育児は育児がギョッといろいろな情報を持っていて、育児支援センターに行けば、ここでこんなサークルをやってますとか周知して、育児支援センターに行けば今日は小出でなにかある日とかわかったり、ここにある幼稚園の説明会だったり保育園の説明会だったりっていうのは育児支援センターには必ずある情報だと思えるんですけど、ある程度子どもが大きくなったら行かなくなることもあったりして。そうするとここで、公民館でも幼稚園の情報があるといいなという要望が来るのはわかります。公民館がいろんな年代に対応するのは大変かと思うんですけど、育児情報とはお母さんとかの育児サロンとか学習支援とか、居場所をやっている人がいるよというのが、わかって、公民館でカバーしきれない部分もここにこんな居場所があるよというのは、公民館に来れば教えてもらえるというのがあったらいいかなと思

います。

○東委員

意外とわからないから。

○山地委員

公民館が情報の発信をする。ここにすればなにかがわかる。相談に乗ってもらえる。そういうことですかね。

○事務局

社会教育主事を公民館コンシェルジュと名付けたいなと思っているんですよね。コンシェルジュというとなんでもこたえることができる。そういうのはいるよというだけでも、子どもたちが親しみやすくなってくると思うし。横文字だとわかりづらいかともおもいますが、そういうきっかけでも良いのかなとも思っております。

○山地委員

8月4日のときとか、それ以外でも良いんですけども、アンケートを取るのであれば、子どもたちとか親御さんに投げかけた方がいいのかなと、たとえば、公民館でどんなことを教えてもらえばいいのかなど。

○事務局

そうですね、先ほど、子どもが何を発表したいかなどでてましたが。

○明石委員

自由広場のアンケートを使うのは難しいですかね。

○事務局

自由広場のアンケートでは来年はどんなことがやりたいですかというのはありますね。拾えないことはないかと思います。今から追加は難しいと思いますが。

○明石委員

実際子どもがたくさん来てっていうのは、自由広場が一番良いかと思っていてどのくらい公民館に来ますかというのが一番拾いやすいのが、もしかしたら自由広場に来てる子どもかなと。

○山地委員

それはなにかのアンケートということですか。

○明石委員

そうですね、自由広場で必ずアンケートをとっています。

○事務局

頻度は聞いていないんですけども、来年はどんなことがやりたいですか、楽しかったですか、などの質問はありますので、結果がでたら、またお配りしたいと思います。

○山地委員

公民館まつりとかで少しこう、同じようなアンケートをやってもいいかなと思います。中学生とか高校生とかになにを教わりたいとか。

○鈴木委員

施設見学とは小学校3年生だけですか。それはどういう感じで始まったものなんですか。小学校から依頼があつてですか。

○事務局

そうですね。小学校3年生だけで、小学校から依頼があつて行っています。

○鈴木委員

中学校の職業体験を幼稚園で受け入れするんですけど、12人くらいけることになったんですね、そういうことを考えると、こちらから働きかけて香川公民館で職場体験をやるっていうのは

○事務局

職場体験は香川公民館でも4名程度受け入れていますね。

○鈴木委員

せっかく和室があるので、高校とか大学で落語とかやっている人を呼んで、今幼稚園でも、古典的な寿限無をやると、ほんとに子どもははまって、年少年中、紙芝居よりも熱中して覚えるんですね。そういうのを見ると寿限無でも良いんですけど、それも高校生の落語クラブとかにやってもらえば、高校生の発表の場にもなるだろうし、友達も親も来るだろうし。それを見に幼稚園の子も誘ったりできるかもしれないので。音楽もダンスも。そういう場所の提供もしてますよということを積極的に中学生高校生にお話していけばいいのかなと思います。

○山地会長

クラブ活動に働きかけて、発表してもらおうということですかね。いっぱいクラブありますよね。発表したいクラブは。茶道とかでもできるんですかね。

○鈴木委員

どうなんでしょうね。

○山地委員

親と子どもにそういったことを聞いて、ニーズの高い方から順番にやっていくという手もあるし。落語とかはおもしろそうですね。

○鈴木委員

子どもたちも短いのだったら覚えてしまうんですよね。びっくりするくらい。それでずっと言ってるんですよ。韓国からたまたま来たお子さんがいて、日本語がまだあまりできないお子さんだったんですけど、寿限無ははまっていたね。読めないのだけれども、音で覚えられる。それくらい言葉が面白いっていうか。音が面白いのですよね。

○事務局

高校だとあるんですかね。

○鈴木委員

落研とかありますよね。今はどうなんでしょう。

○東委員

今はあんまりないかも。

○鈴木委員

あんまり聞かないですからそうかもしれないですね。

○山地委員

だったら大学とか。

○事務局

中学校もないんですか。

○明石委員

中学校も文化部はあまりないですね。高校でも茶道があるところもあるんだか。演劇とかもないですよ。

○山地委員

働きかけるには部活はいいですね。ここで場所を提供しますとやれば。公民館まつりでやるのもいいです。では先ほどのアンケートの話で8月4日のアンケートについては、一応、子どもたちと親御さんたちにアンケートをとるということで。

○事務局

これだけは聞いた方がよいというのはありますか。

○山地委員

なにか皆さんの方で聞いてほしいというのがあったら。

○事務局

おまつりですので、すごい項目がたくさん並んでいると皆さん敬遠してしまいますので。

○鈴木委員

その子の年齢とか。

○明石委員

なにをしてみたいかとか。

○東委員

やってみたいこととか。なにがあったら公民館に行きたいか参加したいかとか。

○明石委員

私自身が公運審の講座とかにでてやっとならわかってきたのは、まず公民館は普通に暮らしてたら、学びの場なんだけれども、学びの場としてくるのが思ったより少ないのかなと。何かがあるから参加しますという人が多くて、行った後に、これ学習なんだといった感じになっていくのかなと思います。なので、まずは、なにを学びたいですか、というよりも、どんなことがあったら参加しますかみたいなことが入口になって、今まで来たことない人はそこから入ってくるのではないかなと。

○鈴木委員

ハマミーナかなにかで子どもがキレないレシピの講座ありして、良いなと思ひまして、
どんなのだろう、行つてみたいという気持ちになりました。

○事務局

親御さんも、お子さんも同じ内容でお聞きするイメージですよ。

○山地会長

そうですね。あとは公民館まつりや子どもまつりでもとると。そんなところで、あとは自由広場のアンケートでした。

○事務局

公民館でこんな講座があつたら良いというのは、主催事業でとっているものもありますので、お出しできるかと思ひます。全部の講座というわけではないのですが、また、大人向けになってしまうかもしれませんが。子育て世代に限定すると少なくなってしまうかもしれませんが。

○山地会長

そこらへんの結果を第3回の時に整理できるといいですね。では、諮問については、そんなところでよろしいですかね。諮問についてなにか意見ありますか。よろしいですか。では、次の議題に移りたいと思ひます。第30回の香川公民館まつり、この件については、昨年は公民館まつりはなかったんですが、明石委員が今年も実行委員をやつていただければとのことで、明石委員からなにかありますか。

○明石委員

内容的にはせつかく去年計画したのがながれてしまったので、また切り絵でいかがでしょうか。予算も去年とほぼ同じで折り紙などを手配して、それから中学生のボランティアさんも2日間午前午後でお手伝いしてもらうということでよろしいでしょうか。

○山地委員

はい。あとは、昨年作つた公民館の情報発信に関するアンケート、まだ残っているのであればとりたいと思ひます。みなさま公民館まつりは日程的には大丈夫ですか。

○事務局

日程は10月27日、28日ですね。土曜日、日曜日。

○明石委員

次の公運審の集まりがおまつりのあとになるのであれば、今日決めた方が。

○事務局

そうですね、今日決めていただいて、もし今の段階でわからないようであれば、後日でも構いません。

○山地委員

みなさん、都合の悪い日などありますか。

○東委員

時間は何時ですか。

○事務局

時間は１０時～１５時です。

○山地委員

そうしたら、午前と午後でわけて決めましょう。

(日程調整)

○山地委員

では、２７日午前は東委員、私、２７日午後は大谷委員、鈴木委員、２８日午前は長谷川委員、私、２８日午後は、明石委員、私でよろしいでしょうか。

では、香川公民館まつりの件は、これで良いでしょうか。その他特に、意見がないようでしたら、議題の４「その他について」事務局から何かありますか。

○事務局

１１月９日（金）県公民館連絡協議会主催の公民館長・公民館運営審議会委員等研修会が山北町で開催されます。また、平成３１年１月１８日（金）に同じく県公民館連絡協議会主催の第６０回神奈川県公民館大会が平塚市で開催されますので、それぞれに出席していただく方を決めたいと思います。社会教育課主催の研修会を１１月に予定しています。内容等は未定となっていますので詳細が分かりましたらお知らせいたします。また、６月２８日に平成３０年度公民館運営審議会委員連絡協議会第２回幹事会が開催されました。研修会の内容をどうするかについて議論され、１２月２１日（金）に研修を開催することとなりました。研修会の内容は、今まで座学が続いたことから、「他の公民館がどういった事業をおこなっているか、どんな雰囲気なのか感じたい」という意見があがり全員一致で研修会は、公民館見学ということとなりました。詳細は後日お知らせいたします。

○山地委員

１１月の県への研修と、３１年１月の平塚への研修に行かれる方を決めたいということですが、みなさん、いかがでしょうか。人数は制限はあるんですか。

○事務局

どちらも３名ずつくらいですね。

(日程調整)

○事務局

それでは、１１月９日の研修に山地会長、東委員、長谷川委員、１月１８日の研修に明石委員、鈴木委員、大谷委員は後日ということで。時間等詳細はまたお送りします。

○山地会長

では、そんなところで。またあとで詳細を教えてください。他に何かありますか。

○事務局

もう1点、第3回の審議会ですが、11月12月頃とさせていただきます。また別途日程は調整させていただきます。

○山地会長

よろしいですか。では、今日も長い間ありがとうございました。これで終わります。

会長署名

山地 廣

委員署名

東 いづみ